

# 総合日本語プログラムにおける 履修登録・授業記録システムの構築

深川 美帆・山本 洋

キーワード：プログラム運営、教務管理、授業記録、履修登録、オンライン

## 1. はじめに

金沢大学では、国際化を目指す大学の方針により2010年以降留学生が急増し、それに伴い日本語を履修する学生数も増加している<sup>1</sup>。金沢大学で学ぶすべての学生や研究生を対象とした全学向けの日本語教育を提供している総合日本語プログラム（旧総合日本語コース）では、2010年度より従来のプログラムの在り方を見直し、増加する留学生への教育支援をより効率的、効果的に行うための改革を行っている。本稿では、その改革の一環として行った教務システムおよび履修登録システムのオンライン化について、教育現場における導入後の効果と今後の課題について述べる。

## 2. 従来の総合日本語プログラムの状況と問題点

### 2.1 総合日本語プログラムについて

総合日本語プログラムは、留学生センターが全学に向けて提供している日本語プログラムである。その前身は本学の一般正規学生や特別聴講学生、研究生を対象としたいわゆる日本語の課外補講であったが<sup>1</sup>、1998年秋学期より、留学生センターで受け入れている協定校からの留学生の各種プログラムの日本語教育部分を担うようにもなった。2012年現在では、こうしたプログラムの数も一層増加し<sup>2</sup>、滞在期間、日本語レベ

---

深川・山本（金沢大学留学生センター）

- 1 1999年度から2009年度までの10年間は、留学生数はおよそ350人であったのに比べ、2010年度の留学生数は491名（2010年5月）と急増した。
- 2 平成10年度秋学期のプログラム数は、日本語研修コース、金沢大学日本語・日本文化研修プログラム、金沢大学短期交換留学プログラム（KUSEP）の3つであったが<sup>1</sup>、平成23年度現在では、日本語・日本文化研修コース、日本語研修コース、KUSEP、日韓共同理工系学部留学生コース、セメスタープログラム、の5つである。

ル、留学の目的も多様な学生たちが履修している<sup>3</sup>。

## 2.2 総合日本語プログラムにおける問題点

留学生への教育を円滑に行うには、日本語教育はもちろんのこと、その教育を円滑に提供するための教務管理が不可欠である。教務管理の具体的な業務にはプレイスメントテストの作成と実施、履修登録、学生の在籍管理、成績管理、学生への連絡などがあるが、これらの教務管理業務は実質的にはプログラムを担当する専任教員（コーディネーター）と、一部については授業を担当する教師が行っていた。こうした業務は、ともすれば授業をするのと同じくらいの時間と労力を割くこともあった。しかし、今後一層増加が見込まれる留学生数を考えると、このままの体制ではコースの運営と教育の質を維持することが難しくなることは必至である。そこで、これらの作業の負担を軽減することが急務となった。

まず挙げられるのは、学習者のプログラムへの在籍状況の把握である。総合日本語プログラムで受講する学習者数がそれほど多くなかった時代には、全て紙ベースで学生情報や出欠確認を行っていたが、学習者数が増加してくると、次第にこの方法では速く正確に情報を集約することが難しくなってきた。また、大学全体の履修登録システムには一部の留学生を除き、IDの登録がなされていない状況であったため、それを利用することも不可能であった。

二つ目は、授業の引き継ぎのための連絡の方法である。総合日本語プログラムの中の総合クラス<sup>4</sup>では、1つのクラスを複数の教師で受け持つチームティーチングを行っており、毎回の授業記録や迅速な授業の申し送りが不可欠である。これまでは授業の引き継ぎや授業の様子などは口頭や紙による申し送りで行っていたが、その連絡方法の煩雑さが問題であった。

三つ目は、クラス間の授業に関する情報の共有が難しいことである。教師は自分が担当する以外のクラスで他の教師がどのような授業を行っているかについては、ほとんど互いに知ることがなかった。そのため、教師は自分が担当するクラスの学生が他のクラスで学習している内容や、学生の様子などを知ることが難しかった。

3 平成14年度春学期履修者数は221名であるが、平成23年度秋学期現在は456名である。

4 総合日本語プログラムで開講されている科目は、総合クラス、漢字・語彙クラス、技能別クラスに分かれる。総合クラスは、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった4技能を週3回あるいは4回（1回は90分）で学ぶクラスのことである。

## 2.3 問題解決のためのシステム構築とその目的

そこで、上述のような問題を解決し、業務の効率化と教育の可視化により、より質の高い教育を行うための教務システムを構築することにした。

システムでは以下の項目の実現を目指した。

- 1) 総合日本語プログラムを履修する学生の情報（学生の所属，連絡先，日本語学習歴，出欠状況，成績）がオンラインで一元管理できること【管理者＝プログラムのコーディネーター】
- 2) 総合日本語プログラムの各科目の学生の履修状況，授業記録や成績がオンラインで閲覧できること【授業担当者＝教師】
- 3) 総合日本語プログラムの科目の履修手続きをオンラインでできること【学習者】
- 4) 総合日本語プログラムを履修する学生がオンラインでプレイスメントテストが受けられること【学習者】【コーディネーター】
- 5) 総合日本語プログラムを履修した学生の科目に対するアンケートがオンラインで実施できること【学習者】【コーディネーター】

## 3. 教務管理システムについての先行研究

履修登録などの教務管理システムは、大学単位の大規模なものから一部の学科やコース単位の比較的小規模なものまで、既に多くの教育機関で利用されている。また、本システムと同様、留学生の日本語コースの履修登録を扱ったシステムの報告もある（岡崎・大神2006，渡部・坂野2006，坂野・渡部2007）。これらの先行研究では、オンライン化することの利点として、学生の利便性の向上，コース管理者側にとっての正確で迅速な情報収集といった点が挙げられている。その教育機関が抱える問題点や使用実態に応じたシステムが構築されていることから，総合日本語プログラムにおけるシステム構築も，教育現場の実態をよく精査し，機能を絞り込む必要がある。

## 4. 総合日本語プログラム授業履修システムの構築

前掲2.3で挙げた目的を実現するべく，本システム構築にあたっては，総合日本語プログラムのコーディネーターをはじめ，本センターで日本語教育に携わっている教員が中心となり，学内のシステムとの連動の可能性も考慮しつつ，システムの設計を行った。システムの実際のプログラミングについては専門の業者にこちらのシステムの設計をもとに委託した。

以下、本システムの機能を概観した上で、各機能について詳述する。

#### 4.1 システムの構成

本センターの授業履修システムは、学内、学外ともに利用できる Web システムとなっている。ユーザーである学生と教員はログイン情報を入力してアクセスする。

サーバには、優れた省電力性を実現する富士通サーバ「PRIMERGY RX100 S6」を利用し、毎日定時に外付けストレージにバックアップを作成し、安全性に考慮した。OS は Red Hat Enterprise Linux との完全互換を目指した CentOS を使用している。データベースは、国内で利用率が高い PostgreSQL を採用し、言語は PHP を用いた。

本システムの対象は、本学の総合日本語プログラムにおいて授業を担当する教師、ならびに授業を履修する留学生である。本システムの権限は「コース責任者」「教員」「学生」に分かれており、それぞれの権限で本システムにアクセスし、情報を入力または出力して各機能を利用するしくみになっている（図1）。

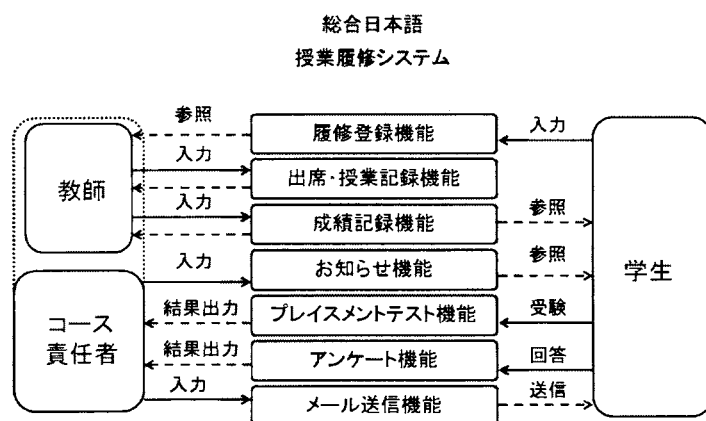


図1 授業履修システム 構成図

ユーザーである教員と学生は授業履修システムのトップページからログインする。

ログイン画面では、日本語ページと英語ページの言語切り替えができるようになっており、学生は自分でいずれかの言語を選択してログインするようになっている（図2）。

ログイン後は、それぞれの権限によりログイン後のトップページに表示される項目が異なる（図3）。まず、学生としてログインした場合、「履修登録機能」、「アンケート機能」、「プレイスメントテスト機能」が主な機能となり、「教員」としてログインした場合、授業や成績の記録が主な機能となる。そして、コーディネーター、すなわち

システム管理者権限でログインした場合は、「教員管理機能」、「学生管理機能」といった権限設定に関するものや、各授業の開講年度、授業名、分類等の管理を行う「授業管理機能」、学期の開始、終了の日付や履修登録期間の設定、成績入力、閲覧の期間を設定するための「期間管理機能」などが主な機能となる。また、これらに加えて、コースアンケートの設定や入力および結果出力を行うための「アンケート管理機能」、プレイスメントテストの設定や入力、結果出力を行うための「プレイスメントテスト管理機能」などもある。また、全システム登録者を対象としたメール送信機能やお知らせ機能も責任者権限でのみ使用できるようになっている。

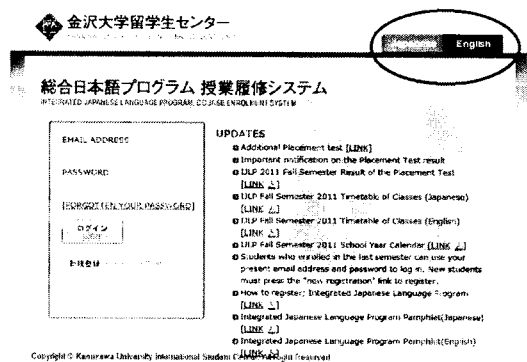


図2 授業履修システム ログインページ

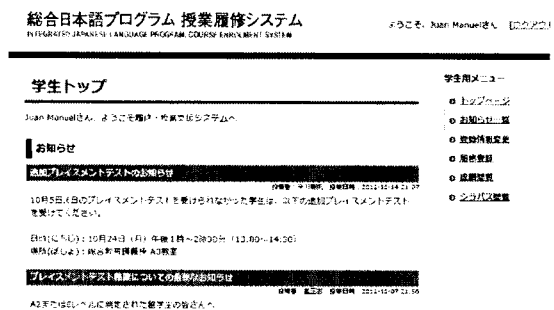


図3 ログイン後のトップページ（学生権限）

## 4.2 履修登録機能

学生：総合日本語プログラムの授業を履修する学生は授業履修システムのトップページから「新規登録」を行う（図2）。「新規登録」画面では、学生自身が氏名、性別、年齢、国籍といった情報に加え、日本語学習歴や日本語能力検定資格の有無、過去に使用したことのある教科書等についても入力する<sup>5</sup>。これらの情報は、コーディネーターや授業を担当する教員が随時閲覧することができ、授業開始前の段階でもどのような学生が履修するかを詳細に把握することを可能としている。「新規登録」終了後、学生は各自のプレイスメントテストの結果にもとづき、授業の履修登録を行う<sup>6</sup>。新規登録後にシステムにログインし、履修登録画面からその学期に自分が履修したい科目を一覧から選択する（図4）。履修登録する際に必須となるシラバスについても、同システム上にシラバス閲覧ページが設定されている。

教員：教員は履修情報表示メニューから総合日本語プログラムで開講されている全ての科目の学生の履修状況を確認することができる。通常、授業履修システムではそ

の教員が開講している授業の履修状況を担当教員が確認するために当機能が設定されているのが一般的であるが、本センターでは、プレイスメントテストによってクラス分けされた各クラスは、レベル毎に複数の教員で担当することが多いことから、学習者が他にどの授業を履修しているかといった情報は、後述の学生の出席、学習状況とあわせて教師間での共有が求められる。また、チームティーチングを行う教師同士が簡易にお互いのシラバスを閲覧できる点もメリットとして挙げられよう。さらに、一つの技能（例えば「書く」技能など）について段階的に習得していくことを考えて設置してある科目間においては、前のクラスでどのような教材を使用し、どのような授業を行っていたのかといった情報は、クラスを引き継ぐ際に必須となることはいうまでもない。

責任者：責任者は教員の権限も包括しているので、上述の教師権限の機能に加え、プログラムに登録している全学生の情報をこのシステムで把握することができる。それぞれの学生が、その学期にどの科目を履修しているかを把握できる。本プログラムでは学期開始時から履修登録期間内に学生のレベルやニーズに応じてクラスを変更することが起こるが、その動きがリアルタイムで把握できるようになり、学生の在籍管理が、より迅速に正確にできるようになった。また、学生が毎学期どの科目を履修し、どのような成績であったかも把握できるため、学生の履修動向を知る上でも多くの情報が瞬時に得られるようになった。

## COURSE ENROLMENT: AUTUMN SEMESTER, 2010

PLEASE SELECT YOUR COURSE CLASS BY CLICKING THE ENROLLMENT BUTTON.

1	2	3	4
<p>1. 1st</p> <p>2nd Japanese for Medical</p> <p>Student ID</p> <p>2nd</p> <p>AAA</p> <p>AAA</p> <p>2nd</p> <p>2nd</p>	<p>1. 1st</p> <p>2nd Japanese for Medical</p> <p>Student ID</p> <p>2nd</p> <p>AAA</p> <p>AAA</p> <p>2nd</p> <p>2nd</p>	<p>1. 1st</p> <p>2nd Japanese for Medical</p> <p>Student ID</p> <p>2nd</p> <p>AAA</p> <p>AAA</p> <p>2nd</p> <p>2nd</p>	<p>1. 1st</p> <p>2nd Japanese for Medical</p> <p>Student ID</p> <p>2nd</p> <p>AAA</p> <p>AAA</p> <p>2nd</p> <p>2nd</p>

図4 履修登録ページ（学生権限）

## 総合日本語プログラム 授業履修システム

TOTAL JAPANESE PROGRAM COURSE ENROLLMENT SYSTEM

ようこそ 先生(権限)さん [ログアウト]

履修情報表示					履修情報メニュー	
学期別科目	科目名	科目番号	科目名	科目番号	履修情報メニュー	履修情報メニュー
1. 1st	2nd Japanese for Medical	2nd	AAA	AAA	履修情報メニュー	履修情報メニュー
2. 2nd	2nd Japanese for Medical	2nd	AAA	AAA	履修情報メニュー	履修情報メニュー
3. 3rd	2nd Japanese for Medical	2nd	AAA	AAA	履修情報メニュー	履修情報メニュー

図5 履修情報ページ（教師権限）

- 5 学生自身が自分の情報を入力することについては情報の正確性の面から最善とは言えないが、本学では大学が作成する留学生の学籍情報が揃うのが履修登録期間後であるため、渡日前から必要なこれらの情報は本人にしてもらうしかないためこのようにした。
- 6 履修登録ができる期間は後述のコース責任者の権限（期間管理）により設定されており、履修登録期間が過ぎている場合は、利用できない旨のメッセージが表示される。

これらの情報と、次項の「出席・授業記録」を合わせることで、授業開始時に必要となる学生の情報の多くを事前に把握することができるようになった。

#### 4.3 出欠・授業記録機能

教員は授業終了後、学生の「出欠記録」、「授業内容」、「学生の様子」、「連絡事項」それぞれの項目を記入する。中でも「学生の様子」、「連絡事項」は、学生の学習状況や授業態度、欠席の理由、宿題の提出状況といった情報の共有を教員間で行う事を目的としている。これらを Web 上のシステムで行うことにより、授業を担当する教員間のより緊密な連携が可能となっている。

#### 4.4 成績記録機能

教員が学期末にこの項目から学生の成績を入力する。入力する内容は「出席」「試験」「平常点」の3項目であり、いずれも100点満点で入力する。出席率については「出席・授業記録」の出席回数のデータをもとに自動計算され、図のように出席回数と共にパーセントで表示される。また、「出席」「試験」「平常点」それぞれの項目の総合成績に占める割合については、「評価の配点」の欄にパーセ

成績記録[登録画面]

授業科目名	年度	2011年度秋学期
[検索] [戻る]		
学籍番号 名前 (漢字/カナ) 名前 (英字)	国語 所属1 所属2	評価の配点 出席回数 出席率 試験 平常点 点 点 点
備考		
1	・中国 ・学部 ・後援保健 学域・異学 類	6回 42% 点 点 中級教養
2	・korea ・留学生セ ンター ・日本語・ 日本文化	13回 92% 点 点 中級教養

図6 成績記録ページ

ンテージを入力すれば自動的に計算され、総合点（100点満点）、および評定（S,A,B,C, 不合格）が出力される（図6）。従来、これらすべてを教員がそれぞれ行っていたことを想起すれば、成績の出力にかかる時間は大幅に短縮されている。教員は定められた成績入力の期間中に、この項目から学生の成績を入力し、学生は直接 Web 上で成績を閲覧する。従来学生の成績は全て成績表を授業担当教師が Excel ファイルで作成し、コーディネーターがそれを取りまとめ確認した後、留学生の所属する各部局へ送付し、学生が部局の事務窓口で照会に来ていたのだが、本システム導入後はこれらが Web 上で行えるようになった。

#### 4.5 アンケート機能

これは、学期終了時に学習者に対し、履修したクラスに対する評価を行うアンケート機能である。アンケートの設置、アンケート項目の入力と編集、アンケート結果の出力と閲覧ができるのは、責任者だけである。責任者は、アンケート機能を使ってその学期のアンケートを作成し、実施期間を指定して登録しておく。すると、学生はア

ンケート実施期間中に履修登録システムにログインすると、トップ画面にその学期に自分が履修したクラスのアンケートのアイコンが表示され、それをクリックするとアンケート回答画面に行き、回答することができる(図7)。アンケート結果は瞬時に集計され、責任者がそれを随時 csv ファイルで出力できる。そこで得られたデータは、教師へのフィードバックやコースデザインの基礎資料として利用できる。

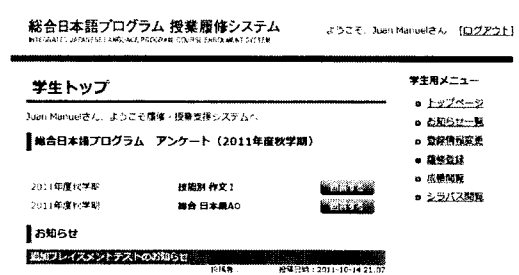


図7 アンケート回答ボタンが表示されたトップページ(学生権限)

#### 4.6 プレイスメントテスト機能

これは、学期開始前に日本語の既習歴のある学習者に対し、日本語力を測るための選択式と記述式のテストを行うための機能である。テストの設置、テスト項目の入力と編集、テスト結果の出力と閲覧ができるのは、責任者だけである。責任者は、プレイスメントテスト機能を使ってプレイスメントテストを作成し、実施期間を指定して登録しておく。すると、学生はプレイスメントテスト実施期間中に履修登録システムにログインしたとき、トップ画面にその学期にプレイスメントテストのアイコンが表示され、それをクリックするとプレイスメントテスト画面に行き、回答することができる(図8)。テストの結果は瞬時に集計され、責任者がそれを、学生が入力した学生情報とともに csv ファイルで出力できる。そこで得られたデータは、プレイスメントに利用することはもちろん、コースデザインやテスト開発の基礎資料としても利用できる。

#### プレイスメントテスト<文法・作文テスト>

1

正しい答えを選んでください。7,8,14,15は、おなじ語科の文を1つ選んでください。

れい) いま、ごはんを( )います。

- ☐ たべた
- ☐ たべます
- ☐ たべる
- ☐ たべない

1. よく、わかりません。すみませんが、( )はかして ください。

- ☐ たいへん
- ☐ だんだん
- ☐ けっこう
- ☐ ゆっくり
- ☐ [skip]

2. A「あした 3じは どうですか」

B「はい、( )です。」

- ☐ だいじょうぶ
- ☐ べんり

図8 プレイスメントテスト機能

#### 4.7 お知らせ機能・メール送信機能

お知らせ機能は、コース責任者が、教員、あるいは学生に向けてのお知らせをシステム上に掲示することができる機能である。コース責任者が「メニュー」から「お知



らせ」をクリックするとお知らせ入力画面に移る。文面や添付書類を入力すると、システムのトップページ、教員トップページ、学生トップページにお知らせが掲示できる。このように本システムは、学籍管理、授業記録の他、総合日本語プログラムのポータルサイト的な役割も持っている。

## 5. 履修・授業記録システムがプログラムに与えた効果

### 5.1 履修登録

従来、総合日本語プログラムの日本語科目のシラバスは、金沢大学短期交換留学プログラム（KUSEP）や金沢大学日本語・日本文化研修プログラム、一般正規学生で共通教育科目Bを履修する学類生以外には配布されておらず、履修登録の時点では、学生は科目名と総合日本語プログラムの概要説明のみを頼りにクラスを選択するしかなかった。また教師側も、プレイスメントテストを受けた学生以外については、どのクラスにどんな学生が何人ぐらいいるかが、全くわからないまま初回の授業を迎えるしかなかった。さらに履修登録はすべて紙ベースの情報（学生カード、授業の手書きの出席表など）で行い、学籍管理を手作業で行っていたため、学期開始から1、2週間は教師への授業準備以外の教務関係の仕事の負担が過度に重く、また混乱も多かった。コーディネーターも各クラスの状況を把握するための時間と労力が必要以上にかかり、プログラム全体の様子を短期間で効率よく掌握することが難しかった。

しかし、この授業履修システムを導入したことにより、履修を希望するすべての学生がコース開始前に授業の概要を知った上で学期開始日の4週間前から履修登録が可能になり、どのクラスで何を学ぶかを学生自身が事前にいろいろな情報を参照した上で履修科目を選択することが容易になった。特に専門科目の履修の合間を縫って日本語クラスを履修する多忙な学生にとっては、自分が学びたい内容を提供する科目を知ることが重要なことである。一方、教師側にとっても、学期開始前に履修予定者がわかるため、授業開始時の授業準備がしやすくなった。さらに教師が手作業で学籍簿を作成する必要がなくなったため、これにかかる負担がなくなり、より授業内容そのものの準備に時間と労力が当てられるようになった。また、コーディネーターも各クラスの履修予定者が学期開始前からわかるようになったため、学期開始前に次の学期の実情にあったクラスの調整が可能になった<sup>7</sup>。また、学期開始時の学生のクラス変更が発生しやすい時にも瞬時に学生の履修状況が把握できるようになった。その情報と学生情報（所属、日本語学習歴、プレイスメントテスト結果）を元に、学生のレベルに適したプレイスメントをしやすい環境が整った。現在はシステム導入初期ということ

もあり、来日後に本学でオリエンテーションを受けた学生を対象に履修登録システムを利用しているが、将来的には、本学への留学が決まった学生にも来日前に母国にいながらにして、登録やプレイスメントテスト受験を可能にし、渡日前からの学生の留学支援・日本語教育支援にも役立てたいと考えている。

## 5.2 授業記録

システムの導入前は、前述のとおり、授業記録と授業の引き継ぎ連絡は、1) 紙による授業日誌の閲覧、2) 1) の内容をメールで次の担当教師および同じクラスを担当している他の教師に連絡、3) 直接会って口頭での連絡、4) 電話での連絡、のいずれか(あるいはこれらの複数)によって毎回行っていた。この連絡にかかる労力や時間も決して少なくなく、授業終了後にこの処理だけでも多くの時間を費やしていた。また、授業記録はその学期期間中は担当クラスのものを必要に応じて閲覧することはあっても自分の担当クラス以外のものをあえて閲覧することはまれであった。その上、学期終了後にファイルに綴じて保管された後は、それをちょっとしたときに見て確認したいと思っても実際には難しく、そうした記録が来学期以降も有効に利用されているとはいえない状態であった。しかし、システム導入後は、その日の授業の記録はオンライン上で記録・閲覧ができるようになったので、システムに記録を入力しさえすれば、同じ内容をメールや口頭でわざわざ連絡する必要はなくなった。また、オンライン上で記録を入力・閲覧できるようになったことで、教師が自宅からこうした情報を確認できるようになった。これは、本プログラムのように非常勤講師に授業を委嘱することが多い組織にとっては大変便利でかつ大切な機能である<sup>8</sup>。また、自分の担当したクラス以外の記録も閲覧できるので、同じ学期の自分のクラスに関連したクラス、例えば総合クラスとその同レベルの漢字または技能別クラスなどでの授業内容や学生たちの様子を知ることができるようになった。さらに、過去の学期の記録もさかのぼつ

---

7 この履修登録システムの利点が最大限に発揮されたのは、2011年春学期開始時である。春学期開始の約1ヶ月前に起こった3月11日の東日本大震災直後、本学に留学中の学生の中には春休み期間ということもあり、一時帰国していた学生も少なくなかった。未曾有の大災害と言われたその時期に、果たして本学に留学生が戻ってくるかどうかの予測が全くつかない事態に陥っていた中、履修登録システムのメール送信機能を使い、金沢大学は通常どおり授業を行うことを全登録学生に一斉に連絡したところ、学生たちが次第に履修登録をしはじめ、学期開始時には例年通りの履修予定者数であることを把握でき、大きな混乱もなく学期を開始することができた。このようなシステムを持っていることは、通常の教育・学習に活用するだけでなく、危機管理においても有益であるといえる。

8 2009年秋学期までは11, 12名, 2010年度春学期からは毎学期16, 17名の非常勤講師に授業を委嘱している。

て閲覧することができるので、担当したクラスのこれまでの授業の進め方などを参照しやすくなった。コーディネーターにとっても、授業記録がシステム化されたことは、プログラム運営を効果的に行う上でよい変化をもたらした。全てのクラスのその日の学生の出欠状況や授業の様子が、担当者が入力した瞬間から閲覧できるので、学生の様子やクラスの進度や内容を把握できるようになり、プログラム全体の様子を詳細に速く把握することが可能になった。これにより、学生の修学上のカウンセリングも必要に応じて迅速・的確に行えるようになった。こうした機能が活用できるようになってから、これまで各クラスの担当者に課していたクラスの毎月の報告書（月報）を廃止したことも、教師の負担の軽減につながった。

### 5.3 アンケート機能

従来はプログラムとして統一したアンケートはなされておらず、一部のクラスにおいて構成も項目もばらばらなアンケートを実施していた。しかし、それでは各クラスにおける学生からの反応は見えるかもしれないが、プログラム全体として学生がどう評価しているか見えてこない。さらに、各クラスの担当教師の面前で紙による記述式の解答方法では、アンケートの匿名性が保持されにくく、そのような状況で得られたデータには信頼性に疑問が残る。また、従来の紙の方式では授業時間を使って実施せざるを得なかった。また、その日に欠席した学生からのデータ、そしてそのクラスの履修を途中で放棄した学生の回答を得ることができなかった。そこで、この履修登録システムにオンラインアンケート機能を組み込み、コーディネーターからの依頼によるアンケートという方式にした。オンラインによるアンケート結果は従来の紙によるアンケート結果より、学生1人1人の本音に近い意見を聞くことができるようになり、教育内容の改善、教師の自己研修に大変役立っている。

### 5.4 プレイスメントテスト機能

従来のプレイスメントテストは、問題にも記述式のものが多く、実施に2時間、採点とクラス判定に10名ほどの教師が関わって5,6時間はかかっていた。今回、プレイスメントテストをオンラインで実施できることにより、試験結果の即時採点が可能になり、コース開始前の多忙な時期に採点やクラス判定にかかる時間が大幅に節約できた。また、プレイスメントテストの得点や解答のデータも自動的に蓄積されていく仕組みができたため、今後のプレイスメントテスト開発のための基礎資料ができた。プレイスメントテスト機能については、今後それらのデータをもとに分析をし、テストの妥当性や学習者の属性との関連について研究を進めていくつもりである。

## 5.5 プログラムに関する情報発信（メール一斉送信，シラバス閲覧，時間割閲覧）

留学生センターのホームページと連動して，コースの概要，時間割などを全学の学生に向けて情報提供することが可能となった。また，メール一斉送信機能により，それらの情報提供をはじめ，履修登録開始時期や成績閲覧開始時期，またアンケート実施時期にその連絡が行えるようになった。これに加えて，学期期間中の日本語の授業に関する学生への連絡も効率よく発信できるようになった。

## 5.6 履修・授業記録システムに対する教師の反応

この履修登録システムを導入して3学期目を終える時点で，総合日本語プログラムの授業を担当している教師（非常勤講師）にアンケート調査を行った。その結果，履修登録システムの導入についてどう思うかをシステム全体について，および機能ごとに5段階で評価してもらったところ，回答を得た14名中全員の教師が，履修登録システムの導入について，「たいへんよいと思う」（10名）または「よいと思う」（4名）と回答した。また，記述部分の回答には「それ以前のメールでのやりとりの煩雑さが軽減された」「連絡メールを探す手間が省けた」ことや「他のクラスの情報もわかるので，欠席が続いている学生の他のクラスでの出欠状況の把握も容易になった」こと，「学生への（メールでの）連絡が便利になったこと」などがよい点として挙がっていた。このことから，利用者側である教師からは評価されているといえる。

# 6. 今後の課題

以上，授業・履修登録システムの概要と各機能，そしてシステム導入が，コース全体の教務管理面，教育面にどのような影響を与えたかについて述べた。総合的に見て，履修登録システムがプログラム運営に関わる業務を効率化し，また教育へのよい波及効果をもたらしたといえる。しかしながら，いくつかの問題点や今後解決すべき課題も少なくない。

## 6.1 学内の様々なシステムとの連動

この授業履修システムは全学の履修登録システム<sup>9</sup>と連動していないため，日本語B科目や共通教育科目など，全学の科目としても開講されているものについては，学生がそれぞれのシステムで履修登録をしなければならない。また教師側も，総合日本語プログラム授業履修システムと，全学の履修登録システムのそれぞれで成績評価を入力しなければならない。

もう一つは総合日本語で利用している、eラーニングシステム「e-IJLP」<sup>10</sup>との連動である。この2つのシステムは利用対象者が実質同じ教師と学生なのだが、相互のシステムが連動していないため、それぞれのシステムで学生情報の入力と管理をしなければならない。毎学期、これを実質的に手作業でしなければならないのは、コーディネーターにとって特に新学期の多忙な時期には大きな負担となっている。

## 6.2 より使い勝手のよいシステムへの改良

今回のシステムは作り上げる過程で、何度も機能や設計の見直しをしながら少しずつ機能を拡張していったが、今後もさらに改良すべき箇所がある。例えば、上述の教師のアンケートでは履修登録システムについて評価されている一方、3学期間利用してみて、使い勝手の不便さ（例：学生が自分で入力するため、国籍名の表記が不統一）などの指摘もあった。今後はこうした意見や提案も取り入れて、システムの一層の充実をはかりつつ、よりよい教育環境の実現に向けてシステムを改良していく予定である。

### 【参考文献】

1. 岡崎智己・大神智春（2006）「留学生のための日本語コース（JLC）における受講・成績管理システムのオンライン化」『九州大学留学生センター紀要』第15号、p.113-127
2. 坂野永理・渡部倫子（2007）「全学日本語コースWebシステムの改訂」『大学教育研究紀要』第3号、pp.29-36 岡山大学留学生センター
3. 佐藤勢紀子・上原聡・福島悦子・中村渉・二階堂秀夫・安西従道・白石茂典・田中秀樹（2008）「日本語教育におけるWeb登録システムの構築—プログラム運営方法の改善をめざして—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』3、pp.325、東北大学高等教育開発推進センター
4. 渡部倫子・坂野永理（2006）「全学日本語コースWebシステムの開発」『大学教育研究紀要』第2号、pp.39-47、岡山大学留学生センター

---

9 現在金沢大学では、学生（とその家族）、教職員やOBなどが大学内外における情報を取得し、学習、教育、研究、業務などを行う事を目的としたポータルサイト（「アカンサスポータル」）が運営されており、ポータル上には学生の学籍情報のデータベースと連携した授業履修システムが置かれている。しかしながら、前述のとおり留学生センターで開講されている科目（日本語関連科目等）が登録されていないことやポータルサイトの多言語化が進んでいないこと、何よりも正規生以外の留学生（協定校からの交換留学生、研究生、特別聴講学生など）は、アカンサスポータルのIDが入学時に発行される一般正規学生らとは違い、自ら申請手続きをしないと利用できないことなどから、留学生の使用はあまり見られない。

10 総合日本語プログラムでは2011年度春学期よりオープンソースのCMS（Course Management System、コース管理システム）であるMoodleを使ったオンライン学習支援システムを開発した。このシステムでは、学習者が自分の履修している総合日本語プログラムの各授業の学習をサポートする機能を利用することができる。

# **Development of an On-line Japanese Language Course Enrollment System**

Miho Fukagawa and Hiroshi Yamamoto

## **ABSTRACT**

As the number of international students has increased, the problem of registration and administration has also increased. To resolve this issue, the Integrated Japanese Language Program, which is offered for all international students at Kanazawa University, developed a course enrollment system on the web. The system was developed for three types of users: course managers, teachers and students. Through this system, students are able to register for Japanese courses on the internet. They are also able to view course schedules and a detailed course syllabus for each class. Teachers and course managers are able to find quickly the number of students enrolled in each course as well as identify each student's needs in learning the Japanese language. The online system was introduced in the fall semester of 2010. Through the use of this system, administrative tasks were vastly diminished. Furthermore, it facilitated the sharing of information about classes and students with teachers. While the system has had a positive influence on the courses and has been deemed a success, there is still room for improvement, and updates are continually being made to further increase its usefulness.

**Key Word** : Management of Language Program, Management of Educational Affairs, Recording Lessons, Registration for Classes, On-line Class Registration